

平成19年度 現代的教育ニーズ取組支援プログラム

「農山村集落との交流型定住による故郷づくり」

- 持続的に “ 関わり続けるという定住のカタチ ” による21世紀のふるさとづくり -

第5回公開講座 「丹波を知る」「地域再生」

日時 2008年3月15日(土) 13:00~16:10

場所 関西大学 千里山キャンパス 図書館ホール

プログラム

13:00~14:30 「丹波を知る」

「酒造りから丹波を知る」

山名 純吾 山名酒造株式会社 代表取締役

14:40~16:10 「地域再生」

「熊野古道の文化的景観を守る地元主導の地域づくり

- 『紀伊山地の霊場と参詣道』登録後3年を通じて - 」

神吉 紀世子 京都大学大学院工学研究科准教授

1 今回の講座の成果と今後の展望

現代GP「農山村集落との交流型定住による故郷づくり」は、関西大学と丹波市が持続的に交流することによって、フィールド・体験型の教育と21世紀のふるさとづくりをめざすプロジェクトです。丹波市青垣町佐治地区における空き家リノベーション、交流ワークショップ、滞在型ワークキャンプなどとともに、学生と住民が共に学ぶ公開講座（『丹波を知る』『地域再生』）を毎月開催しています。第5回は、山名酒造株式会社の山名純吾氏から丹波の伝統的な酒造りについて、京都大学准教授の神吉紀世子氏から、熊野古道における文化的景観保全活動について話していただきました。参加者は、27人（学生7、大学教職員8人、住民・その他12人）でした。参加者は、本講座を通じて、「地場産の米だけを使った酒造り」という、丹波地域に息づいている伝統文化を再発見することができました。また、熊野古道の取り組みからは、地域のまちづくりには、住民が日常生活の場を通じて、小さなことに主体的に取り組むことが重要であることを理解できました。現代GP「農山村集落との交流型定住による故郷づくり」では、今回の講座の成果を活かして、丹波地域の歴史や文化などの財産を再発見しながら、住民、行政が中心になり、これに大学が参加することによって、新しい故郷づくりを進めたいと願っています。

2 講座の内容

酒造りから丹波を知る（概要）

奥丹波の酒造りの家に生まれ、一度は故郷を離れたが、30歳で郷里に帰って家業を継いだ。故郷の風景はすっかり変わっていたが、昔のまま変わらない酒造りを受け継いでいこうと決め、今に至っている。会社のある市島町は、扇状地に開けた、水が豊富なところである。また、早くから有機米や有機野菜づくりが盛んなところであり、当社の酒造りのために有機の山田錦を栽培してくれる仲間が周辺に沢山いる。日本酒は、かつては米だけでつくる純米酒だったが、第2次大戦中に極寒の地でも凍らない酒が求められたことが契機となって、アルコール入りが一般的になった。当社では、地元の有機米だけを使った伝統的な酒造りを行っている。酒造りは、洗米、蒸米、製麹、酒母、仕込み、上槽、滓引き、瓶

詰め、出荷というプロセスをたどるが、その課程は生き物をいたわるように細心の注意を払い、長い時間をかけてつくる。だから、酒造りが好きで、辛抱強い者でないと、美味しい酒は造れない。私がイメージしている故郷（ふるさと）丹波の姿を酒という形で、これからも世の中に出していきたいと思っています。



60年代の酒造り風景



有機米の生産者たち

熊野古道の文化的景観を守る地元主導の地域づくり（概要）

世界遺産の暫定登録時の名称には、「紀伊山地の霊場と参詣道」に「周辺の文化的景観」が加わっていた。世界遺産の熊野古道は、日常的な生活や生産の場でもあるので、地元民は日頃の集落や森、農地などを大事にする必要があると活動している。富田坂の語り部グループ「富田坂クラブ」は、地域の歴史をもっと知って語るために、古い歴史だけでなく、ついこの間までの歴史を拾い集めた。古くから中辺路の中心地であった近露では、有償ボランティアの語り部制度「ひょうたん古道」をつくり、民家を開放して地域や地域づくりを紹介するオープンカフェの開催、高齢者からのヒアリングによる地域資源の掘り起こしなどを行っている。

大学が中心になり、他地域に比して遅れていた集落や町家などの歴史的資源に関する調査も行った。高野山に近い天野では、使われなくなった牛小屋を洋間化し、頻繁に開かれる講の集まりのために玄関を設けたことから、玄関が2つある民家が多い。伝統的建造物群保存地区に指定された湯浅では、空き家や空き地が増えるなかでも、あんどんコンテスト、歴史を表現するものをつくって展示する活動など、新しい文化的な活動も大切にしながら、まちなみ保存を続けている。

世界遺産に指定された熊野では、きっこうだと思ひ、常に軌道修正する余裕や柔軟性ももちながら、まだわからないことがあるかもしれないと思ひ、再発見する活動を続けている。昔に戻るのではなく、こう進んでいたらよかったと思ひ将来を今からめざしている。間違ったり、軌道修正しながら来たのが歴史的な地域だと思ひば、その時代の流れの中に私たちもいると、皆さん納得しながらやっています。



熊野古道(中辺路)



近露集落